

# あいち トリエンナーレ 2013

## プレスリリース

2011年10月21日（金）

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局  
名古屋市東区東桜 1-13-2  
TEL : 052-971-6111  
FAX : 052-971-6115  
E-mail : geijutsusai@pref.aichi.lg.jp



## 1 開催概要

### ■開催目的

- ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。
- ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。
- ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。

### ■名称（日／英）

あいちトリエンナーレ 2013／Aichi Triennale 2013

### ■芸術監督

五十嵐 太郎（東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学））

#### （略歴）

東京大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院修士課程修了。博士（工学）。  
中部大学講師、東北大学大学院助教授を経て、2009年から東北大学大学院教授。  
2007年から2009年まで文化庁芸術選奨（美術部門）推薦委員に選任されたほか、  
2008年のヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展では、日本館コミッショナー  
を務めた。また、2010年に開催されたあいちトリエンナーレ2010では、長者町  
企画コンペの選考委員も務めた。



### ■会期

2013年の夏から秋頃（詳細は後日発表）

### ■会場

詳細は後日発表

### ■主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

## 2 テーマ・コンセプト

### ■テーマ（日／英）

揺れる大地—われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活  
／Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

### ■コンセプト

あいちトリエンナーレ 2013 は、多くの来場者が訪れ、成功をおさめた 2010 年の第一回に続くものであり、期待を受けながら、二度目の開催に向かって船出しました。しかし、現在は荒波の時代です。大地が激しく揺れた東日本大震災が引き金となって、自然の恵みをもたらしてきた海が沿岸の街を襲い、原発の事故も発生しました。日本が大きな試練を迎え、転換を迫られるなかで、このトリエンナーレは世界に文化芸術を発信する国際展となります。したがって、先端的なアートの変遷を紹介する第一回の長所を継承しつつも、荒波を越えていくための新機軸や時代性を織り込んでいきます。

19 世紀末にゴッホは「われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか」という題名の絵を描きました。これに対して、今度のトリエンナーレは「われわれはどこに立っているのか」を考えたいと思います。当たり前だと思っていた根拠を失い、既成の枠組が変動するとき、自らが踏みしめる大地＝アイデンティティがどうなっているかを確認する必要があります。この問いは、場所の固有性を具体的に考えることにもつながると考えます。美術館の箱の中とは違う、街に染みだしていく祝祭的な風景は、あいちトリエンナーレの特徴ですが、新しく芸術が介入することで、都市の可能性を開くだけでなく、作品を通じて、すでにわれわれが立っている日常的な場を再発見することができます。場所の力を引きだし、空間の意味を変えるのは、美術や建築だけではありません。このトリエンナーレでは、パフォーマンス・アーツの分野においても、視覚芸術との実験的な統合を試みながら、いま、ここでしか体験できない空間を生みだします。

多くの犠牲者を出した 3.11 のカタストロフに遭遇した後、アートに何ができるか、という議論がおきました。これは日本だけの問題ではありません。さまざま意見があるでしょうが、芸術がなすべき役割のひとつは、人類が生みだした最強の文化的な記憶装置として過去を忘れないようにすることでしょう。そして記憶を呼び戻し、希望を復活させること。われわれが再び歩きだし、青い空を見上げることができるように。このトリエンナーレは、固有の場所に結びつく記憶と復活を通じて、アートの力を社会に問いかけ、われわれが生きる街の輝きを増していくことをめざします。

あいちトリエンナーレ 2013 芸術監督 五十嵐太郎

### 3 あいちトリエンナーレ ロゴマークについて

#### 1 シンボルマーク



#### 2 和文ロゴタイプ

あいち  
トリエンナーレ

#### 3 英文ロゴタイプ

AICHI  
TRIENNALE

#### 4 和文ロゴマーク



#### 5 英文ロゴマーク



#### デザインコンセプト

あいちトリエンナーレの頭文字、AとTを組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られています。その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あるゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できるものと考えます。また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられています。テーマカラーは青色（シアンブルー）です。

## 4 参加アーティスト (参考画像) ※アルファベット順

### 青木野枝 (あおき のえ)



《空の水-II》2005

鉄 (コルテン鋼)

スペースサイズ : h. 630 x 1,100 x 3,200cm

アートプログラム青梅 SAKURA FACTORY (青梅市) での展示

photo by 山本紉

Courtesy of Gallery Hashimoto, Tokyo

1958年東京都生まれ。東京を拠点に活動。1983年武蔵野美術大学大学院造形研究科(彫刻コース)修了。2000年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。2003年中原悌二郎優秀賞受賞。2000年に目黒区美術館で「青木野枝展一軽やかな、鉄の森」を開催。

青木は80年代初頭より鉄を素材に制作と発表を続ける。鉄板から溶断して切り出し、それを溶接して、つないで制作する。「鉄」の持つ重々しいイメージと塊としての「彫刻」のイメージを見事なまでに払拭した、シンプルで見るとものに大きく開かれた作品が特徴。美術館の展示室内に限らず、屋外においても、作品を設置することで大気と時間を包みこんだ場所へと変化させるアーティスト。

### 石上純也 (いしがみ じゅんや)



1974年神奈川県生まれ。東京を拠点に活動。

2000年東京藝術大学大学院美術研究科建築科修士課程修了。妹島和世建築設計事務所勤務を経て、2004年石上純也建築設計事務所設立。2007年の東京都現代美術館での「space for your future」展で金属でできた重さ1トンのボリュームが宙にただよう「四角いふうせん」を展示し注目を集める。2008年第11回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展日本館にて個展。2009年「神奈川工科大学 KAIT 工房」で日本建築学会賞作品賞受賞。

2010年第12回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展で金獅子賞を受賞。2010年資生堂ギャラリーおよび豊田市美術館で個展を開催。大胆なアイデアに基づく空間と構造物を作り建築の可能性を拓ける、今、国内外で最も期待され、注目されている建築家である。

《四角いふうせん》2007

photo by 市川靖史

Courtesy of Gallery Koyanagi

## 奈良美智（なら よしとも）



《untitled》2010  
193.0 x 183.0 cm  
アクリル絵具、カンヴァス  
Courtesy of Marianne Boeskey Gallery,  
New York and Tomio Koyama Gallery, Tokyo

1959年青森県生まれ。東京を拠点に活動。1985年愛知県立芸術大学美術学部を卒業後、1987年同大学院修了。1988年ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに入学。2000年8月ドイツから帰国する。1990年代半ばより名古屋でも定期的に発表をしていた。1995年名古屋市芸術奨励賞受賞、1998年カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で3ヶ月間客員教授を勤める。その後東京での活動を経て、2005年より栃木県在住。2006年度武蔵野美術大学客員教授。国内外で個展は多数。ニューヨーク近代美術館に作品が所蔵される日本の現代美術を代表するアーティストの一人。睨みつける子供をモチーフにしたドローイングや絵画で知られるが、grafとの建築的なコラボレーション、そして陶芸にも取り組むなど、新しい試み続けるアーティストである。

## 名和晃平（なわ こうへい）



1975年大阪府生まれ。京都を拠点に活動。1998年京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻を卒業。2000年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2003年同大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2003年麒麟アートアワード奨励賞受賞。2010年アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ最優秀賞受賞。2011年東京都現代美術館で個展「シンセシス」開催。ビーズやプリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなど、現代的な素材を用いたさまざまなタイプの彫刻作品を、さまざまなスケールで制作する。彫刻の可能性を拡げ続ける注目の若手アーティストである。

《PixCell - Double Deer#4》2010  
ミクストメディア  
photo by Nobutada Omote (SANDWICH)  
Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

## 5 関連イベント

### ■トリエンナーレスクール

あいちトリエンナーレ 2013 の開催に向けて、現代アートをもっと身近に楽しんでいただくため、レクチャー形式のトリエンナーレスクールを開始します。第一線で活躍するアーティストや専門家をゲストに迎え、アートと地域の関わりや海外の国際展の状況などをテーマに開催します。

#### 概要

##### ○ コミュニティと美術シリーズ1「市民・美術・教育」

日時：2011年12月10日（土）14:00～15:30

会場：愛知芸術文化センター12階アートスペースA

ゲスト：中村政人（アーティスト／東京藝術大学絵画科准教授／3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター）

定員：200名、参加費：無料

##### ○ 世界の中の日本シリーズ1「日本の現代美術が世界で経験していること」

日時：2012年1月28日（土）14:00～15:30

会場：愛知芸術文化センター12階アートスペースA

ゲスト：小山登美夫（小山登美夫ギャラリー代表）

定員：200名、参加費：無料

##### ○ 世界の国際展シリーズ1「ヴェネチア・ビエンナーレでの出来事」

日時：2012年2月25日（土）14:00～15:30

会場：愛知芸術文化センター12階アートスペースE・F

ゲスト：植松由佳（国立国際美術館主任研究員）

定員：60名、参加費：無料

##### ○ 表現の最先端シリーズ1「クリエイターもキュレーター」

日時：2012年3月3日（土）16:00～18:00

会場：アートラボあいち1階

ゲスト：澤隆志（映像作家／キュレーター）

定員：45名、参加費：無料

※当日は各開始時刻の30分前から受付し、整理券を配布します。  
各回とも先着順で受付を行いますので、定員に達した場合は入場をお断りする事があります。



(リーフレット表面)

<http://aichitriennale.jp/>